令和５年 10 月 24 日（火曜日）

◎富士見市（埼玉県）

市 章

１．市の概要

（１）市役所の所在地

埼玉県富士見市大字鶴馬１８００番地の１

（２）市役所の位置等（「統計ふじみ）より」

・北緯　35 度 51 分 24 秒　　東経　139 度 32 分 57 秒

・海抜　4m～25m

・東西　7.0ｋｍ　　南北　6.8ｋｍ

（３）面積　19.77ｋ㎡

（４）気象（令和４年）

年間平均気温 16.0℃　最高気温 39.5℃　最低気温－4.8℃

年間降水量 1232.5ｍｍ（「統計ふじみ」より）

（５）地勢

埼玉県の南東部、首都 30 キロメートル圏に位置し、東は荒川を隔ててさいたま市に、北は川越市・ふじみ野市に、西は三芳町に、南は志木市にそれぞれ接している。

面積は、19.77 平方キロメートルで、県全体の面積に対する割合は 0.52 パーセントとなっている。

地形は、南西部の武蔵野台地と北東部の荒川低地によって大きく２分されているが、さらに台地部は、諸河川によって分断され、それぞれが独立した小台地を構成している。南西部の洪積層からなる武蔵野台地は、明治、大正初期には、台地林が帯状に連続した、いわゆる武蔵野の雑木林が広がっていたが、現在は大半が住宅地と畑作地帯となっている。北東部の沖積層からなる荒川低地は、さいたま市との市境を流れる荒川と江戸時代から大正時代まで、江戸と川越地域を結ぶ重要な交通路であった新河岸川の２つの１級河川を擁する水田地帯となっている。荒川が現在の市境を流れるようになったのは、江戸時代の水害を防ぐための河川改修によるものである。旧荒川はびん沼川としてその面影をわずかに残している。

地質をみると、台地は風積の火山灰からなる赤土（ローム）でおおわれている一方、低地の主部は黒泥層が広く分布している。また、低地には氷河期後の海面の上昇により約５５００年前に縄文海進とよばれるように海が広がり、台地縁辺部には多くの貝塚等の遺跡が残存している。

（６）人口及び財政状況

・人口　　113,165 人　（令和５年９月 30 日現在）

・世帯数　55,128 世帯（令和５年９月 30 日現在）

・一般会計当初予算　390 億 3,893 万円（令和５年度）

２．富士見市民文化会館　キラリ☆ふじみ

（１）所在地

埼玉県富士見市大字鶴馬１８０３番地１

（２）施設概要等

・運営団体　　公益財団法人キラリ財団

・開館日　　2002 年 11 月 1 日

・敷地面積　　19,938.50 平方メートル

・建築面積　　5,581.10 平方メートル

・延べ床面積　7,358.58 平方メートル

・構 造　　鉄骨鉄筋コンクリート造・鉄筋コンクリート造・鉄骨造
（メインホール、マルチホール、スタジオ、展示・会議室、展示室、アトリエ）

・規 模　　地下１階・地上３階・塔屋２階

・「富士見市民文化会館キラリふじみ」が条例名称。“キラリふじみ”と呼ばれ親しまれている。キラリふじみの名称は、市民公募（応募点数約 300 点）の中から選考された。

・心のゆとりや生きる活力に満ちた豊かな市民生活を実現することを目標に、「１．公演（創造）事業」、「２．教育普及事業」、「３．市民交流・支援事業」の３つを事業の柱とし、それぞれに有機的な繋がりを持たせながら事業を総合的に展開している。

・キラリふじみの芸術活動の一層の充実を図るため、開館当初より芸術監督制による運営を行っている。

３．視察内容

2023 年 10 月 24 日、杉並区議会区民生活委員会として、富士見市の文化芸術振興の取り組みについて視察した。富士見市は埼玉県の南東部に位置し、人口約 11 万人の都市である。東京近郊のベッドタウンとして、人口も少しながら増加傾向にある。職員の方によると、特に特徴のある市ではなかった富士見市のブランドとしてキラリふじみが地域おこしの一環として機能するようにという目的で文化芸術振興に取り組んできたとのこと。

【視察目的】

富士見市における文化芸術振興の取り組みやキラリふじみという劇場施設の在り方が、座・高円寺を持つ杉並区にとっても参考になるのではないかということで視察に訪れた。

【視察概要】

平成 14 年に劇場施設「キラリふじみ」が開館し、その 10 年後である平成 24 年には富士見市において文化芸術振興条例が制定されている。この条例を基に、平成 26 年には文化芸術振興基本計画が制定され、劇場・条例・基本計画を軸に富士見市における文化芸術振興の取り組みが行われている。

この条例において、特筆すべき点は市民協働で策定した条例であることだ。条例にも市民及び団体が行う文化芸術活動の権利、市民及び団体の役割、文化芸術振興に関する施策を実施する市の役割及び責務、市民が関与した基本計画の策定等について規定がされている。こういった条例に基づき、平成 26 年から 10 年間の基本計画では「育む」「繋ぐ」「活かす」「支える」を基本目標として市の文化芸術振興について幅広く規定しているものである。

具体的には、子ども文化芸術大学ふじみでは小学校 4 年生から 6 年生を対象に文化芸術体験ができるワークショップを開催。市にゆかりのあるアーティストが講師として、打楽器やダンス、演劇などの講座を実施している。その他にも、地域コンサートや自衛隊コンサート、舞台芸術鑑賞会など様々な文化芸術に触れる機会を市民に提供している。

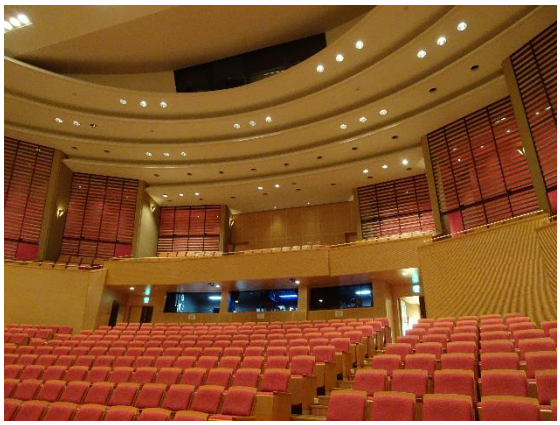
特に富士見市における文化芸術振興の取り組みについて印象的だったのが、文化芸術アドバイザーと芸術監督を置く取り組みである。芸術アドバイザーは特に行政に対するアドバイスを実施し、芸術監督は芸術面で責任のある参画を重視している。芸術アドバイザーには平田オリザ氏や北原幸男氏を迎え、富士見市の文化芸術活動に専門分野からアドバイスをもらう取り組みを行っている。職員研修においても、演劇の手法を使ったコミュニケーションの取り方の研修などを平田オリザ氏が実施しており、行政と文化芸術が切り離されたものではなく、連動しながら富士見市の文化芸術振興を後押ししていることが特徴として挙げられる。

【施設見学】

視察に伺って驚いたのは富士見市が所有する劇場施設「キラリふじみ」の充実した施設だ。広い土地の中に、大劇場やスタジオ、多目的ホールや展示ホールなど、様々な芸術作品を作ったり、上演・展示したりすることのできる広々とした施設の在り方が印象的だった。

最も目を奪われたのは、施設の真ん中に大きく空間を利用した水の空間だった。富士見市職員の方によると、富士見市のシンボルでもある水をテーマにした劇場設計をしたかったとのこと。大きな施設に囲まれる形で、中心にある水の空間とその周りにデッキがあり、休憩できるように椅子や机を置いているスペースの使い方はとても気持ちの良いもので、十分な土地スペースがあるからこそ可能である設計だと感じた。

多目的ホールは印象的で、段差を自由につけることで舞台や客席を作っていくことのできる設計になっている。緑の壁が特徴的だったが、演出家によれば緑が演出の邪魔になることもあるようで、黒い幕を壁に貼って作品を上演したりすることもあるとのこと。壁自体も移動式になっており、舞台の演出で壁を移動させるようなことも可能となっている。メインの劇場は約 800 席ある非常に広々とした空間だった。二階席からも舞台が見えにくくなることのないように工夫をした設計だそうだ。音響設備も充実しており、クラシック音楽などの録音にも使われているようだ。



【成果・課題と今後の取り組み】

施設利用者に対するアンケート調査によると、ポジティブな意見とネガティブな意見がいくつかあるようだ。ポジティブな意見としては、キャッシュレス決済を取り入れていることが便利で使いやすいといったものや、スタジオにおける太鼓の利用が可能なことが望ましい、市外の人でもスタジオを利用できるのがよい、といった声が挙げられる。一方で、ネガティブな意見としては、トイレにウォッシュレットがないことや、空調の調節が細かくできないといったものがあるようだ。

これまでの取り組みの成果としては、行政や市民が芸術監督と一緒に創作をすすめてきたことにより、総務大臣賞などを受賞していることが挙げられる。一方で、有料の公演に対する観客動員などの課題も残る。